中学３年４組　英語科学習指導案

指導者　　須 田 香 織

【本時で目指す子どもの姿】
色々な価値観に積極的にふれた後，自分の考えをしっかりと述べる姿
「ヒーローは誰？！」という共通のテーマのもと，簡単な伝記（名言とエピソード）を読み，自分の経験や将来の夢などとつなげて自分の意見として相手に伝える姿

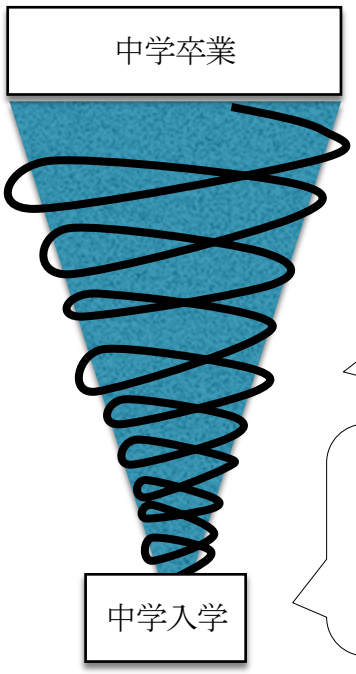
【具体的な手立て】
相手意識を高め，互いに伝えようとしていることを理解できるようにするために，インタラクティブ（対話形式）レポートを取り入れる。
相手を変えて，３回自分の意見を述べる機会を設ける。

１　単元名　　即興リーディング&レポート
ー　Unit ６　ヒーローは誰？！　ー

２　単元のねらい
今までに身に付けた力を活用して，リーディングで得た情報とそれに関する自分の考えを相手に理解してもらうように伝えることができる。

３　授業の構想
(1) 次に挙げるのは，本学級の生徒がこの中学３年間で身に付けてきた「英語表現」に関する学習を図式化したものである。これは，中学校卒業の最後の単元となり，集大成である。ここでは，これにまでに付けてきた４技能の全て力を活用して，自分のことを表現する生徒の姿を目指している。

中学３年間で身に付けたい力『英語表現の能力』※アンダーラインは統合的な力



３年生　初出
・相手の話に感想や自分の意見を話したり書いたりすることができる。
・読んだ内容に関して自分の考えを話したり書いたりすることができる。その際，相手の理解度を確認しながら進めることができる。

２年生　初出
・自分の考えを話したり書いたりすることができる。
・読んだ内容に応じて，自分の考えを書くことができる。
・読んだ内容を要約して，相手に話すことができる。

１年生　初出
・絵を描写することができる。
・写真の情報をもとに会話することができる。
・自分の身の回りのことを話すことができる。
・読んだ内容を相手に話すことができる。

英語科の目標である「コミュニケーション能力の基礎」の育成を目指して今までの学習を進めていった。学習が進むにつれて，受信と発信との関連をもたせた統合的な活動を多く取り入れてきた。それは，聞いたり読んだりしたことについて，自分の意見を述べることが日常生活で欠かせないからである。この単元では，「ヒーローは誰？！」というテーマのもと，相手にわかってもらえるように工夫しながら自分の考えを伝える活動を行う。色々な価値観にふれ最終的に自分の考えをしっかりと述べる姿を目指し，本単元の授業を構想した。

⑵本単元で目指す本英語科が定義した「問いをもち，主体的に追求する姿」は以下の通りである。

〇様々なことがらに関心をもち，積極的に他者のことを知ったり自分のことを伝えたりしようとする姿

〇課題意識や目的意識をもち，試行錯誤しながらよりよいコミュニケーションを目指す姿

つまり本単元に置き換えて具体的に示すと以下のようになる。

・読んだことについて自分の考えとあわせて相手に伝える姿

・目の前の相手の理解度を確認しながら，コミュニケーションの図り方を試行錯誤する姿

上で述べた三つの姿は，本単元の始めから少しずつ求めていき，最終的には三つの姿が同時に見られることを目指している。その姿を求めるための言語活動が，即興リーディング&インタラクティブレポートである。ここで言う「インタラクティブレポート」とは，一方的な説明とは異なり，相手に理解してもらうことに重点を置くため，はじめの段階から相手に質問したり，相手がスピーカーに質問したりする対話式のプレゼンテーションである。

指導者は日本を代表する４人のヒーローの伝記を準備する。１グループ１ヒーローの伝記を読み，生徒それぞれが，その人がヒーローである理由を自分なりの考えとしてまとめていく。次に，自分とは違うヒーローの伝記を読んだ人とペアになり，意見交換を行う。それを計３回繰り返すと，自分のヒーローも含めて４人のヒーローについて知ることができ，３人の友だちの意見を聞いたことになる。このように，読んだり聞いたりして色々な価値観にふれた後，自分の最終意見を述べる。この活動の鍵を握るのは，インタラクティブレポートと名付けた意見交換のやり方である。このインタラクティブレポートの大きなポイントは，相手の理解度を確認するなどして双方的なやりとりをしながら進めることである。従って、生徒は一方的に話すのではなく，敢えて相手に質問を投げかけたり，相手が質問したくなるような表現の工夫を取り入れたりして対話形式で行う。時には，相手によって話すスピードを変えたり，表現を変えたりと試行錯誤する。初見の文章を理解し，それを相手に伝える。お互いが歩み寄って質問することで情報を共有していく。準備したものは一切なく，生徒一人一人の中にある知識や技術を活用し，目の前の課題を解決していく。これは，今後，生徒が様々な世界で必要となる即興力につながるのではないだろうか。

この単元での目標に対する手立ての一つは，現役スポーツ選手の伝記を準備することである。生徒が知っている本物の選手であれば，生徒は目の前の文章を読みたくなり，相手にも分かってもらいたい気持ちが高まり，聞きたい，伝えたいといったコミュニケーションを図るモチベーションが高まる。また，相手を変えて，計３回のインタラクティブレポートを仕組むことも手立ての一つである。２回目が終わったところで，お互いの理解度を確認しながら進める重要さを再確認するために，困っていること，うまくいかないことや改善策を共有する。相手の使った表現をモデルとして「自分もそんなふうに言ってみよう」とヒントを得ることができ，回を重ねるごとに双方向でのやりとりに深まりが出ると考えられる。

４　展開計画（全９間　本時９／10）

次	時	主な学習と具体的な学習・内容	◇追求する子どもの姿

1	1 2 3 4	人やものを詳しく述べよう。 ・カルタをする。 ・ピクチャートークをする。 ・関係代名詞を含む文の意味・構造および，その運用について理解する。 ・自分のお気に入りのものや人を紹介する。	
2	5 6	幼い子にとってのヒーローは誰？！ ・即興リーディング&インタラクティブレポート	
3	7 8	Jackie Robinson の好きなところ教えて！ ・ジグソーリーディング(Suda version)をする。 Jackie Robinson の伝記を読み，感銘を受けたところを理由とともに相手に伝える。（インタラクティブレポート）	
4	⑨ 10	ヒーローは誰？！ ・１グループ１人のヒーローを読み，相手に伝える準備をする。 ・ペアでインタラクティブレポートをする。（３回） ・自分が考えるヒーローは誰かのレポートを書く。	◇読んだことに対して，自分の経験や夢などとつなげて自分の考えとして相手に伝える姿 ◇目の前の相手の理解度を確認しながら，コミュニケーションの図り方を試行錯誤する姿

５　本時の学習

(1)　ねらい

リーディングで得た情報とそれに関する自分の考えを相手に理解してもらうように伝えることができる。

(2)　展開

学習場面と子どもの取組	教師の支援と願い
１．本時の流れとめあてを確認する。	・学習に見通しがもてるように，流れを提示する。
読んだ情報と自分の考えを相手に理解してもらうように伝えよう	
２．伝記を読んで自分の意見をまとめる。(日・英) ・１グループで１人のヒーローの伝記を読む。 基本的に個人で読むが，同じ班で相談しても良い。 ・自分の経験や夢と結びつけて自分なりの考えをまとめる。（ヒーローの写真とキーワードを書いた視覚アイテムを準備する）	・進路選択を迫られたこの時期に，希望を胸に一歩ずつ進んでいけるように，教師お勧めの４人のヒーローのメッセージや困難を乗り越えた時のエピソードを紹介する。
３．ペアでインタラクティブレポートをする。（英語） ・お互いに質問をしながら，ヒーローについて情報を共有する。	・２回目が終わったところで，お互いの理解度を確認しながら進める重要さを再確認するために，困っていること，うまくいかないことや改善策を共有する。
４．次回のレポート作成の資料とするために，友だちから聞いた情報と友だちの考えをメモする。	